



[プライマネージ]
PRIMANAGE
CSS Open Package Series for Enterprise Resource Planning

■ プリンタの設定

1. 用紙設定方法

① PRIMANAGE2007 では、印刷を実行する際ポップアップウィンドウが表示されます。

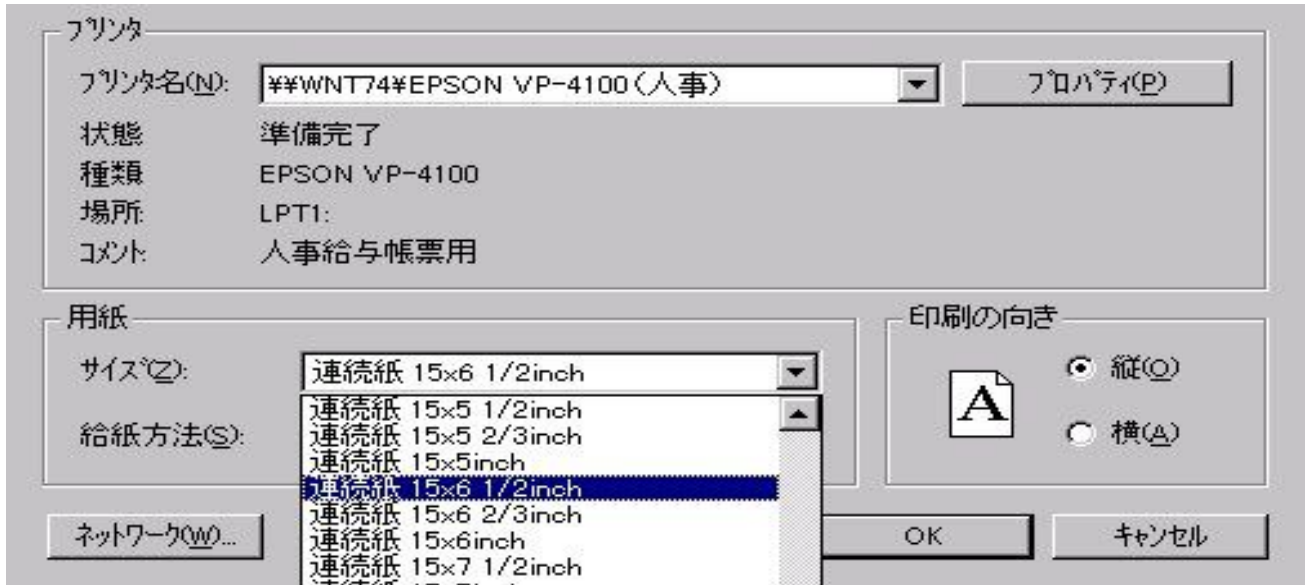
印刷用紙の設定は、このウィンドウの「プリンタ設定(S)」で行います。

項目	値
*98 12 2501000202020 榎の木 守	
基本給	300000
職能給	0
勤続給	0
役付手当	0
職務手当	0
職能手当	0
住宅手当	0
家族手当	0
特別手当	0
支店手当	0
別居手当	0
保安手当	0
残業手当	0
深夜残業	28130
休日手当	11260
休日残業	0
法休手当	0
法休残業	0
精勤手当	0
褒賞金	0
持株奨励	0
減税戻し	0
深夜勤務	0
代休割増	0
交通費	0
通勤課税	0
総支給額	10000
	349390
健康保険	
厚生年金	
雇用保険	
社会保険	
差引課税	
所得税	
住民税	
家賃控除	
生命保険	
持株会	

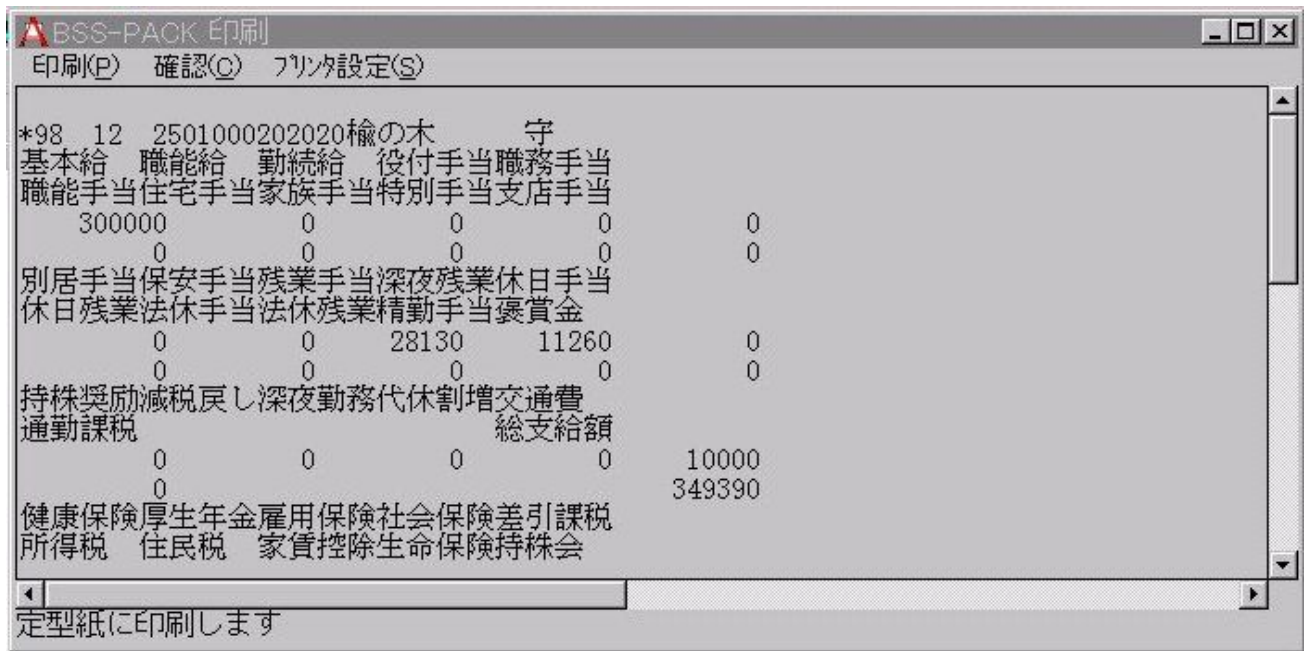
定型紙に印刷します

② 「プリンタ設定(S)」をクリックすると、プリンタ設定ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで、使用するプリンタと印刷する帳票のサイズを設定し、OK ボタンをクリックします。



③ プリンタの設定終了後、「印刷(P)」をクリックして下さい。



印刷終了後、印刷用紙の設定はデフォルトとなりますので次に印刷する際は、再度用紙設定を行って下さい。

2. 専用帳票の設定方法

法令様式によって定められた人事給与関係の帳票は、給与振込依頼書発行、賞与振込依頼書発行、源泉徴収票発行、源泉徴収簿／賃金台帳発行等があります。

これらを印刷する際は、それぞれの帳票サイズに合わせた用紙選択を行って下さい。又、これらの用紙サイズを印刷できるプリンタをご使用下さい。

人事給与管理システムでは、以下の法令様式に準拠した帳票を使用しています。

帳票名	法令様式	用紙設定(インチ)
給与振込依頼書発行	日本法令 給与 MC-20 準拠	10 × 11
賞与振込依頼書発行	日本法令 給与 MC-20 準拠	10 × 11
源泉徴収票発行	日本法令 地方 MC-5-3 準拠	6.8 × 4
給与支払報告書(個人別報告書)	日本法令 地方 MC-3 準拠	8 × 4
源泉徴収簿／賃金台帳発行	日本法令 源泉 MC-7 準拠	15 × 11
被保険者報酬月額算定基礎届発行	日本法令 健保 MC-9-1 準拠	8.1 × 10
被保険者報酬月額算定変更届発行	日本法令 健保 MC-8-1 準拠	8.1 × 10

* 源泉徴収簿／賃金台帳発行の用紙設定がない場合は、ユーザー設定を行って下さい。

■ 画面から行う印刷の指示をスキップする方法

PRIMANAGE2007 の「印刷」では、印刷を行う段階になると、「確認」というタイトルをもち、「印刷しますか？」のメッセージの表示されたウィンドウを表示します。

ここで操作をされている方が、「はい」のボタンをマウスでクリックすると、「BP_Print(印刷)」というタイトルのついた新しいウィンドウを生成して、その画面に印刷内容を表示し、指示待ちの状態になります。

これは、操作をしている方が、実際に印刷を実施する前に、表示されている内容を確認したり、あるいは印刷を取り消したり、また場合によってはプリンタの設定を変更することができるようにするためです。（これがデフォルトの動作になっています。）

このデフォルトの動作では、実際に印刷を実施するには、印刷内容を表示している画面（ウィンドウ）のメニュー・バーから、「印刷(P)」の項目をマウスでクリックする必要があります。

しかし、部品によっては、この選択操作を毎回行うことが煩わしくなることもありますので、この確認のステップをスキップする方法を記します^[注]。

この結果、「確認」というタイトルをもち、「印刷しますか？」のメッセージの表示されたウィンドウで「はい」のボタンをマウスでクリックすると、新しいウィンドウが生成され、ごく短い時間の間、印刷内容が表示されたのち（マシンの速度が速い場合は表示されないこともあります）、直ちに印刷が開始されます。（印刷内容を表示していたウィンドウは消去されます。）

[注]この方法は、部品単位で指定します。

1. 印刷の「確認」のステップをスキップする指定を行うファイル

どの部品について、印刷の「確認」のステップをスキップするかは、*Sel_prt.dat* という名称のファイルに記載します。

このファイルは、クライアント側の、PRIMANAGE2007 のディレクトリのサブディレクトリ SYS の下に置きます。

[例]もし、クライアント側のドライブ D に PRIMANAGE2007 がインストールされているとすると、

D:¥BSS_PACK¥SYS

の下に、このファイルを置きます。

〔注〕 デフォルトのインストールでは、Sel_prt.dat はインストールされていません。

代わりに、参照用として、Sel_prt.sam が PRIMANAGE2007 のサブディレクトリ SYS の下にインストールされます。（拡張子 sam はサンプルの意味です。）

Sel_prt.dat を作成するには、Sel_prt.sam をコピーして名前を Sel_prt.dat と変更した後、以下の説明に従って内容を編集してください。

2. Sel_prt.dat の記述フォーマット

Sel_prt.dat は、アスキーファイルで、エディタで開いて編集することができます。

このファイルの内容は、例えば次のようになっています。

〔例〕

```
SYS9840;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/:
```

```
SYS9860;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/:
```

（出力ポートの記述の直後に、スラッシュとコロン‘/:’をつけます。）

印刷の確認のステップをスキップする部品一つについて一行を使い、次のフォーマットで記述をします。

【Sel_prt.dat の記述フォーマット】

部品コード;プリンタ名=プリンタドライバ名,出力ポート名:

上の例では、第一行目については、次のようになっています。

項目	値
部品コード	SYS9840
プリンタ名	EPSON LP-8200
プリンタドライバ名	winspool
出力ポート名	Ne00:

〔注意〕行中の セミコロン、等号、カンマ、コロン は省略しないで、〔例〕の通りに記述して下さい。（特にポート名では、コロンが名称の一部として含まれる場合もあります。）

3. レジストリの参照

各部品について、上の[例]に従って記述しようとする、ご自分のシステムでのプリンタ名、プリンタドライバ名、出力ポート名、が(正確には)どのようになっているのかよくわからない場合もあります。このときは、システムのレジストリを参照します。

レジストリの参照は、Microsoft の Regedit.exe を使用して行います。

参照は、[スタート]⇒[ファイル名を指定して実行]⇒名前欄に半角で regedit を入力し、[OK]をクリックして起動します。

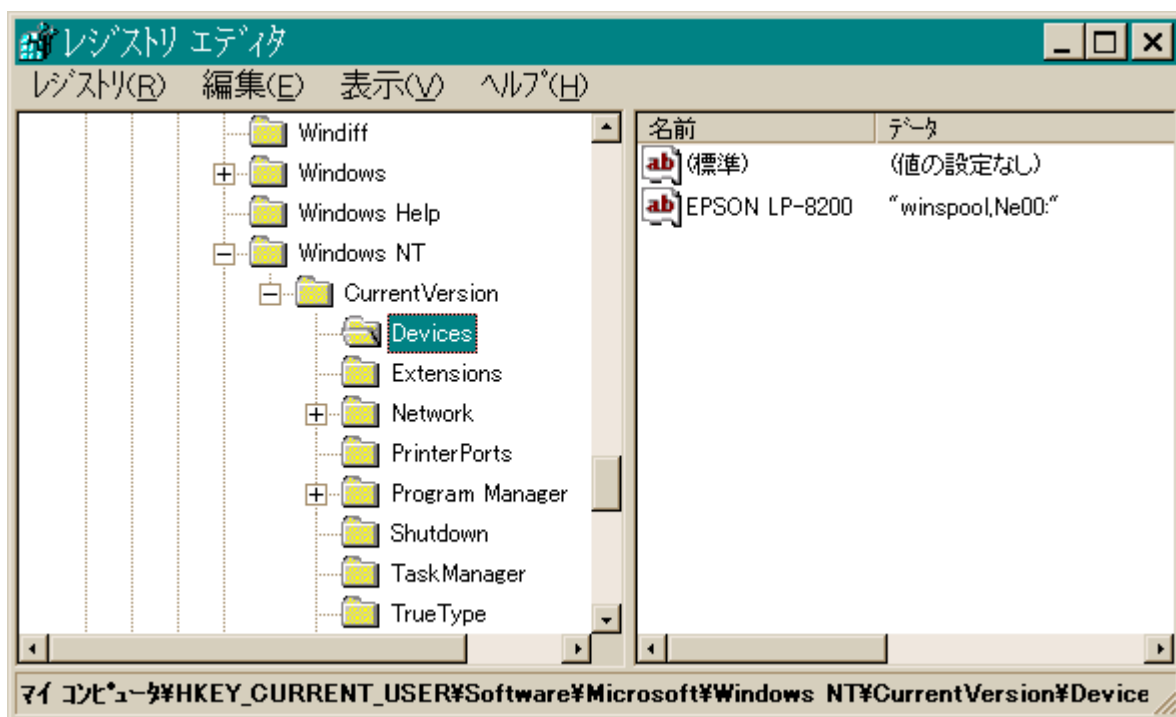
Regedit.exe を起動すると、4つの分類されたレジストリのグループが表示されますので、そのうちの“HKEY_CURRENT_USER”を選択します。

レジストリの参照プログラムの操作は、エクスプローラの操作と同じ感覚で使えますので、この KEY をルートして、

Software → Microsoft → Windows NT または Windows → CurrentVersion → Device

とたどっていきます。

Device の項に到達したとき、右側の画面には、現在インストールされているプリンタ(複数)が表示されているはずで、例を下に示します。



この例では、プリンタとしては、EPSON LP-8200 だけがインストールされています。

この画面の「名前」の下にあるのが、登録されたプリンタ名です。そして、その右側の「データ」の下にあるのが、このプリンタに対するドライバ名(winspool)と 出力ポート(№00:)です。

左側の画面の項目のうちから、使用するプリンタの部分を選択する(クリックする)と、右側の画面にそのプリンタの、設定内容が表示されます。

この内容から、プリンタの名前を「名前」の欄の“Name”の項目に対応する「データ」欄から、ドライバを「名前」の欄の“Printer Driver”の項目に対応する「データ」欄から、出力ポート名を「名前」の欄の“Port”の項目に対応する「データ」欄から、それぞれ取り出します。

〔例〕上のレジストリ表示の、Cannon BJC-420J に対しては、

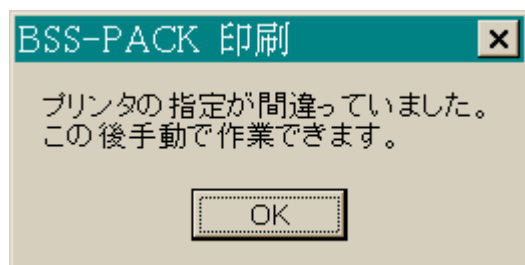
Sel_prt.dat に必要な項目	「名前」欄の項目	「データ」欄の記述
プリンタの名前	Name	Cannon BJC-420J
プリンタのドライバ名	Printer Driver	Cannon BJC-420J
プリンタの出力ポート	Port	LPT1:

となっています。

4. Sel_prt.dat の作成とテスト

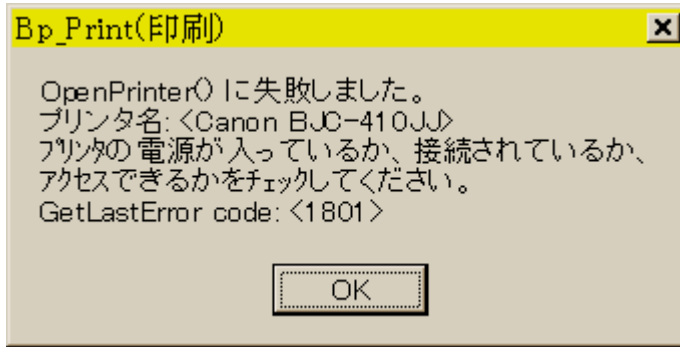
以上から、Sel_prt.dat を作成して、クライアントシステムの PRIMANAGE2007 の SYS サブディレクトリの下に置き、(Sel_prt.dat に記述した)部品を起動して印刷を行い、確認の過程がスキップされることを確かめます。

プリンタ名の記述に誤りがあると、次のようなウィンドウが表示されます。この場合は、プリンタ名の綴りなどを確かめてください。

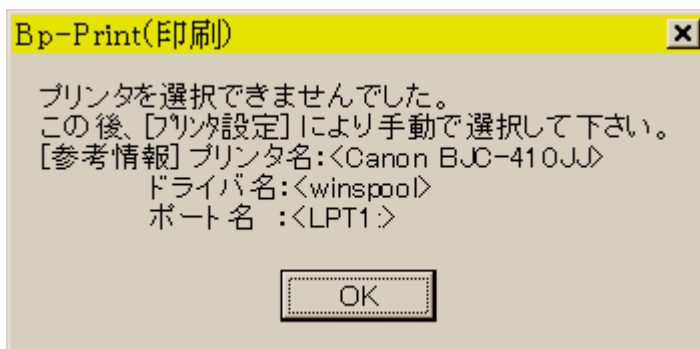


また、部品名の指定に誤りがあると、(指定されていないことと同じになりますので、)従来通り操作する方の指示を待つ動作になります。

なお、プリンタの名前に誤りがあると、次の画面がでることがあります。



この場合は、OK ボタンを押すと、次の画面になります。



■ 印刷の出力毎にプリンタを指定する方法

部品によっては、PRIMANAGE2007 の「印刷」で、印刷の出力毎に別々のプリンタを指定できると便利なことがあります。Sel_prt.dat に記述をすることにより、この機能を利用することができます。

〔注意〕

前項の「画面から行う印刷の指示をスキップする方法」では、Sel_prt.dat に行う記述は、部品単位でした。（部品単位で、確認の画面表示をスキップしました。）

「印刷の出力毎にプリンタを指定する方法」でも、Sel_prt.dat に記述を行います。ただし、その単位は部品から出力される印刷のそれぞれの出力です。

つまり、ある部品が、その作業を終了するまでに、帳票1部と、ストックフォーム1部を出力するものとする、その帳票、およびストックフォームのそれぞれに対して、おのおの(独立に)出力先のプリンタを指定するように Sel_prt.dat に記述します。

1. 帳票毎にプリンタを指定する場合の記述のフォーマット

記述の仕方は、前項の「画面から行う印刷の指示をスキップする方法」と、同じ形式を用います。

〔例〕 SYS9990A1;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/:

記述のフォーマットは、つぎのようになっています。

印刷出力ファイルの主要部;プリンタ名=プリンタドライバ名,出力ポート名/:

(出力ポートの記述の直後に、スラッシュとコロン「/」をつけます。)

前項の場合と異なるのは、前項では部品を指定したところに、この場合は、印刷出力ファイルの主要部を指定する点です。

「印刷出力ファイルの主要部」とは、印刷の開始に先立って COBOL が作成した、印刷データを収めたファイル名の、「先頭からアンダースコアの前」までを指します。

COBOL が作成した印刷データを収めたファイルの名前は、通常次の形をしています。

部品のコード名+いくつかの文字^[*]+アンダースコア+PRT+8桁の数字

「印刷出力ファイルの主要部」は、このファイル名のうちの、サブシステム名といくつかの文字を取り出したものです。

[*] 「いくつかの文字」は、一つの部品の印刷出力を相互に識別するためものです。もし一つの部品が印刷出力を一つしか出さない場合は、出力を相互に識別する必要がありませんので、この「いくつかの文字」は(普通は)省略されます。このときは、

部品のコード名+アンダースコア+PRT+8桁の数字

となります。

具体的に例をとると、例えば、印刷出力ファイルが SYS9990A1_PRT00000163 の場合は、

1. 「部品のコード名」は、SYS9990
2. 「いくつかの文字」は、A1
3. 「アンダースコア」は、' _ '
4. 「PRT」は、' PRT '
5. 「8桁の数字」は、00000163

となります。従って、印刷出力ファイルの主要部は、SYS9990A1 となります。

記述のフォーマットを表形式にすると(上の例に対しては)次のようになります。

項目	値
印刷出力ファイルの主要部	SYS9990A1
プリンタ名	EPSON LP-8200
プリンタドライバ名	winspool
出力ポート名	Ne00:

[注意]行中の セミicolon、等号、カンマ、コロン は省略しないで、[例]の通りに記述して下さい。

2. 記述項目の具体的な内容を知る方法

Sel_prt.dat に記述を行うにあたって、現在使用されているシステムで、プリンタ名、プリンタドライバ名、出力ポート名、がどのような値になっているのかを知らなければなりません。この方法は、前項の「画面から行う印刷の指示をスキップする方法」と全く同じです。前項を参照してください。

3. 「印刷出力のファイル名の主要部」を知る方法

印刷出力のファイル名の主要部を知るには、まず実際にその部品を動作させてください。

この印刷出力のファイル名は、サーバー機の BSS_PACK のディレクトリの下にある、wrk というサブディレクトリの下に作成されます。このファイルは印刷が完了すると消去されますので、操作を途中で停止して、サーバー機の wrk ディレクトリの下を見ることが必要になります。

〔手順〕

6. 印刷を行おうとしている部品を起動して、必要な入力を行い、『確認』のタイトルがついていて、印刷しますか？』というメッセージの表示されているウィンドウが表示されましたら、『はい』を選択して ださい。
7. 印刷のプレビュー画面が表示されますので、操作を止めて、サーバー機に移動します。
8. サーバー機で、エクスプローラあるいは WinFile を起動して、PRIMANAGE2007 がインストールされている ディレクトリを開き、さらにその下の *wrk* というディレクトリを開きます。
9. *wrk* の下に、少なくとも一つは、「サブシステム+いくつかの文字+_+PRT+8桁の数字」の形をした ファイルがあるはずですが、この形式のファイルが複数ある場合は、部品を起動した時間とサブシステム名を 参照して、印刷データを収めたファイルを特定します。

(通常は、部品を起動して印刷を指示してからすぐにサーバー機に移りますので、最新のタイムスタンプを もっているファイルが該当するものとなっています。)

10. ファイル名を特定したら、印刷出力のファイル名の主要部がわかりますので、メモをします。
11. エクスプローラあるいは WinFile を閉じ、クライアント側に戻って、印刷を実行し、 部品の動作を完了します。

印刷出力のファイル名の主要部がわかれば、記述を行うのに必要な情報が得られましたから、エディタを使って、Sel_prt.dat に記述を追加して、テストを行います。

4. 印刷出力の確認画面を出力できるようにする方法

印刷出力ファイルの主要部で、“いくつかの文字”がない場合(1.項の[*]を参照してください)は、「印刷出力ファイル名の主要部」と「画面から行う印刷の指示をスキップする方法」の「部品コード」が一致することがあります。この場合は、Sel_prt.dat での記述は全く同じになります。

この場合、「画面から行う印刷の指示をスキップする方法」の指定が優先されます。つまり、指定のプリンタで印刷が行われますが、印刷確認画面は表示されません。

しかし印刷出力によっては、印刷の確認画面を表示することが必要になることも考えられます。(印刷確認画面からプリンタの切り替えを行うことが必要になることがある、等)

このような場合は、Sel_prt.dat の記述の最後に、R:(半角の大文字 R と半角のコロン)を追記してください。印刷の確認画面が表示されるようになります。

〔例〕 SYS9990A1;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/R:
(R:Reference)

■ 印刷の出力の拡張機能

印刷は、プリンタの属性や、そのプリンタで使用する用紙のサイズに影響されることがあり、ときにはプリンタのドライバによっても影響を受けて、意図した形の印刷ができない場合があります。

ここでは、そのような場合に、意図した印刷を実現するために機能の補正を行うオプションについて記します。

なお、これらのオプションは、部品単位あるいは印刷のドキュメント単位で、印刷の機能を強化することを意図しており、オプションの指定を部品あるいは印刷のドキュメント単位で、Sel_prt.dat に記述します。このため、この項で記している機能を少ない数の部品あるいはドキュメントに対して適用する場合は少ない手間ですみますが、対象の数が多くなると、Sel_prt.dat への記述の行数が増加するため、手間が増えます。

【オプションの記述についての注意】

ここで扱うオプションと、前項「印刷の出力毎にプリンタを指定する方法」の4項で記した R オプションは、いずれも Sel_prt.dat に記述します。

これらのオプションは、Sel_prt.dat の行の、プリンタ名、ドライバ名、ポート名の次に記述するスラッシュ '/' の後ろに記し、オプションの記述を終えたあとで、コロン ':' を書いて行の終端とします。

以下で3つのオプションについて記します。

12. W オプション

ごくまれにですが、プリンタに設定された用紙幅が正しく読み出されないことがあります。この場合、印刷された領域が用紙のサイズに対して過度に大きかったり、あるいは逆に、過度に小さかったりします。

このような場合は、ドライバによって読み出された用紙幅を使わずに、この W オプションで指定した値を、用紙幅として扱うようにします。

オプションの指定は、アルファベットの W(半角の大文字)と、その後ろに3桁の数字を指定して行います。数字は、0.1 インチ単位で記した用紙幅です。次の例は、用紙幅を6.6インチに設定するものです。

[例] SYS9990A1;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/W066:

(W:Width)

13. E オプションと F オプション

PRIMANAGE2007 では、STOCKFORM に印刷するデータを、A4などの用紙に印刷することができますが、このときにはフォントの調整と、印刷用紙の縦横の入れ替えが自動的に行われません。

まれに、特殊な寸法の用紙に印刷を行う場合、この機能(フォント調整と用紙の縦横の入れ替え)を行わないようにしたい場合があります。このような場合は、E オプションを指定すると、この機能を停止することができます。

E オプションの指定は、アルファベットの E(半角の大文字)を記すだけです。

単に E オプションを指定した場合、フォントの大きさの調整が行われなため、意図とは異なるサイズの フォントで印刷が行われます。このため、F オプションを用いて、印刷のフォントの大きさを指定します。

F オプションの指定は、アルファベットの F(半角の大文字)と、その後ろに2桁の数字を指定して行います。数字は、フォントのサイズをポイント数で表したものです。通常は、9~11ポイントの大きさでよいはずですが。(小数点以下のポイントサイズの指定はできません。)

次の例は、フォントの自動設定と縦横の用紙位置の入れ替えを停止して、フォントを 10 ポイントに指定した 場合の記述です。

[例] SYS9990A1;EPSON LP-8200=winspool,Ne00:/EF10:

(E:Extension F:Font)